



熊本県医師会学校検診委員会委員  
熊本大学医学部附属病院小児科講師

## 中 村 公 俊

---

学 歴	1996年 3月 26日	熊本大学大学院医学研究科博士課程卒業
職 歴	1990年 4月 1日	熊本大学医学部附属病院において医学実施研修開始
	1996年 9月 22日	カナダ、アルバータ大学医学部生化学教室博士研究員
	2000年 9月 1日	熊本大学発生医学研究センターリサーチアソシエイト
	2001年 5月 1日	熊本大学医学部附属病院助手（小児科）
	2007年 4月 1日	熊本大学医学部附属病院助教（小児科）
	2009年 3月 1日	熊本大学医学部附属病院講師（小児科）
		現在に至る
委員等	2006年 4月 1日	熊本市医師会学校腎臓検診班委員
	2007年 4月 1日	熊本市医師会小児生活習慣病予防検診班委員、 九州学校検診協議会小児生活習慣病専門委員会、 熊本県福祉総合相談所嘱託医、熊本県糖尿病対策推進会議委員
	2008年 4月 1日	日本先天代謝異常学会庶務幹事 日本先天代謝異常学会セミナー実行委員
	2010年 4月 1日	熊本市児童相談所嘱託医
	2010年 9月 2日	日本人類遺伝学会セミナー実行委員
	2010年 10月 22日	日本先天代謝異常学会評議員
	2011年 4月 1日	日本小児内分泌学会評議員
	2011年 6月 1日	日本小児科学会遺伝学検査検討 WG 委員
	2011年 9月 1日	日本内分泌学会九州地方会評議員
	2011年 10月 2日	OSCE 医療面接認定評価者 (11-01-01-0040)
学位等	1990年 5月 24日	医師免許取得
	1996年 3月	医学博士
	1994年 4月	日本小児科学会専門医
	2002年 12月 16日	臨床遺伝専門医
受賞歴	1996年	平成9年度 病態代謝研究会 海外研究奨励賞
	1997年	AHFMR Travel Grants Dec.1997
	1998年	AHFMR Fellowship, Jan.1998-Dec.2001
	2001年	平成13年度 森永奉仕会 研究奨励賞
	2002年	平成14年度 森永奉仕会 研究奨励賞
	2003年	第13回遺伝医学セミナー受賞招待
	2006年	第59回九州小児科学会最優秀演題賞
	2011年	平成22年度熊本医学会奨励賞 2011年

# 「子どもたちの生活習慣病予防 ～熊本市小児生活習慣病予防検診の現状」 —小児生活習慣病専門医の立場から—

熊本県医師会学校検診委員会委員  
熊本大学医学部附属病院小児科講師

中村 公俊

小児の肥満は、小児期や成人期において臓器障害や運動機能障害をきたす原因となりうる。小児期の肥満の合併症として、2型糖尿病、高脂血症、高血圧、高尿酸血症、脂肪肝、運動能力への影響、整形外科的異常、睡眠時無呼吸症候群、心理的影響などがあげられる。成人期における心血管系疾患や糖尿病のリスクを上げることも知られているため、小児期に生活習慣の改善に努めることは重要である。小児期の介入によって、肥満によるリスクが正常児とほぼ同じになることも知られている。

熊本市では、小学4年生を対象とした小児生活習慣病予防検診を行っている。この検診では、4月の身長と体重をもとに、肥満度20%以上の児童を抽出している。対象者は10月以降に健診センターで行われる精密検査を受診し、身体測定、血液検査、医師の診察を受ける。その結果、血液検査の異常や高度の肥満が認められた場合には、大学附属病院等の精密検査機関への受診を勧めている。この検診における血液検査において、IIa型の高コレステロール血症は比較的多くみられる異常の一つである。小児における動脈硬化の進展を評価する指標として、日本超音波学会ガイドラインに基づいてIMT(intima-media thickness)の測定を試みた。IMTはLDLコレステロールと正の相関を認め、160mg/dl以上と未満の群において有意差を認めた。また、小児FHヘテロ患者ではIMTの増加を認め、プラーク形成がみられた。小児において薬物治療の対象とする高コレステロール血症患者を決定することは容易ではないが、少なくともその一部は対象と考えられることが示唆された。

小児生活習慣病予防検診などのスクリーニング検査は小児肥満とその合併症の予防に有用であると考えられる。